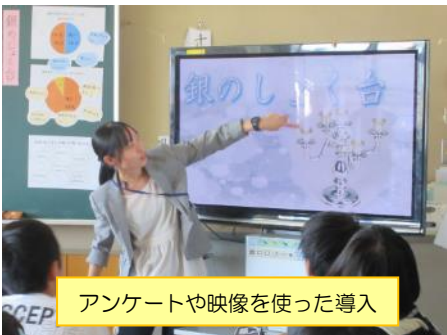
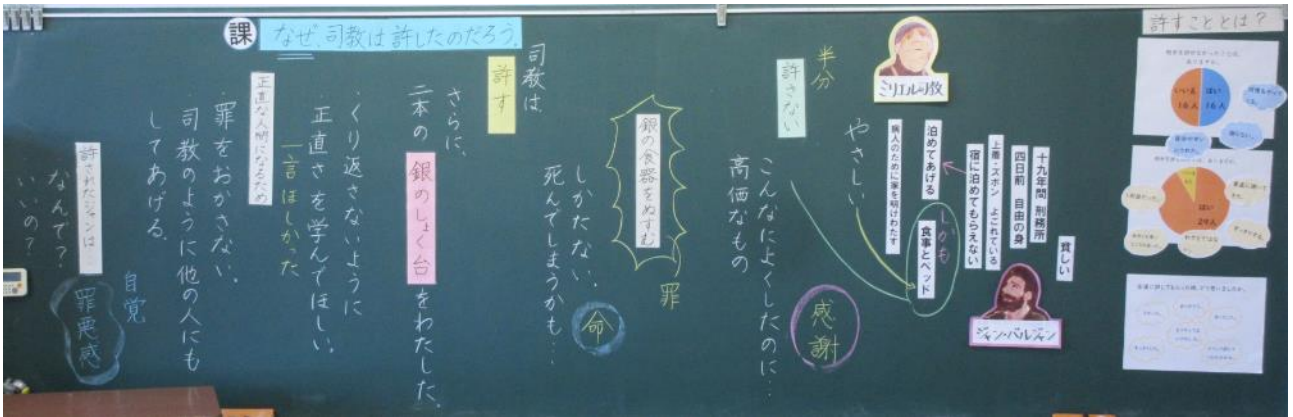


令和元年度東部地区道徳教育研究協議会  
 久喜市立栗橋南小学校  
 【高学年部会】

主 題 名 許すことの尊さ  
 内容項目 B 相互理解、寛容  
 教 材 名 「銀のしょく台」  
 (学研「みんなの道徳5年」)



アンケートや映像を使った導入



主人公と自分を比べて考える工夫



学びを深める振り返り

## 1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

### 【①自分事として考えられる導入や課題について】

- アンケートから問題意識をもつことが出来ていた。
- アンケートや映像資料を用いることで必要感が出ていた。

### 【②話し合い活動について】

- 様々な内容項目が出ていたので、司教側の気持ちに絞って話し合うとさらに深められたのではないかな。

### 【③振り返りの充実について】

- 振り返りでは、最初の考えと最後の考えを比べることで変容を捉えることができていた。
- 後半にねらいからずれてしまう場面も見られた。発問の更なる工夫が必要ではないかな。



## 2 指導講評

- 挨拶や姿勢に見られる児童の姿など、学級の雰囲気が良い。学級経営は道徳の授業を行う上での基盤となるものである。
- 教材は、すべての児童を同じ土台に乗せるために必要なものである。条件・状況の整理を含め、教材の渡し方には配慮が必要。本時のように映像資料で行う場合に、聞き取りが苦手な児童には教科書を見てよいことも伝えるとよい。
- 話し合い活動では、自分の考えをもつことが必要である。教師の問いや教具を工夫することで考える手立てになる。

